

学校法人 青山学院
2009年度 事業計画書



学校法人 青山学院

(2009年3月26日 理事会承認)

2009 年度事業計画

日本の教育界は、いくつもの難題を抱えています。少子化、初等・中等教育における学力の問題、高大接続、学位の質保証、教育の国際化、産官学連携等々、教育への社会の注目と要望はますます多岐に渡り、かつその期待は高まるばかりです。

そうした中、青山学院は、今年 135 周年を迎えます。創立当初より「キリスト教信仰にもとづく教育」という理念をよりどころとし、常によりよい教育を目指してきた先達の努力は、青山学院を幼稚園から大学院までを有する日本有数の教育機関にまで成長させました。この一貫教育が可能な体制は、前述の難題を解決する大きな助けとなります。

私たちは、先達が作り上げたものをより高めて次世代へ継承しなければなりません。そのために青山学院は、2006 年に「アカデミック・グランドデザイン」を策定し、2008 年に理事長声明として 3 つの柱「キリスト教信仰に基づく人間教育の再創造」「教育・研究の充実と環境の整備」「学校法人としての戦略の強化」を掲げ、そのもとに 174 項目の課題を挙げて、その解決を目指しています。

健全な財政を維持しつつ諸課題を解決することは決して容易なことではありませんが、未曾有の世界的経済不況の中、学院は、教職員の知恵と情熱を結集し、幼児教育から高等教育まで、学院の掲げる教育の理想像の達成に取り組んでいきます。

その取り組みは、すこしずつ実を結び始めています。大学・大学院においては、昨年度に続き、本年度も新たに学部・学科を新設しました。学院伝統の英語教育については、初等・中等教育を一貫する英語教材の作成が続けられています。高等部は教育環境の向上のために校舎の全面建替え計画を実行中です。

また 2012 年には大学就学キャンパスの再配置を行う予定です。これは相模原キャンパス(1,2 年)と青山キャンパス(3,4 年)に分断されていた 7 つの学部の学生が青山キャンパスで 4 年間学ぶようになるものであり、カリキュラム改革と新校舎の建築を中心に改革準備が進められています。

青山学院は、掲げる理想の体現へ向けての一步一步を確かなものとするために、ここに幼稚園から大学・大学院までの 2009 年度の主要な事業計画をまとめました。

青山学院は、この事業計画を着実に進めてまいります。

【学院】

・キリスト教信仰に基づく人間教育の再創造

- 1) キリスト教学校の教師を目指す学生に対する養成プログラム(スーパープログラム)の充実
現在、キリスト教学校教師養成プログラムにより、将来キリスト教学校の教員を目指す学生に「養成講座」「学校見学」などを通し一定のオリエンテーションを行っています。しかし、その志望人数を増やし質的内容を高めるためには、これをカリキュラム化する必要があります。キリスト教学校の教員として、それぞれの学校の建学の精神を深く理解し、教育にあたる人材を育成することは、今日多くの教育現場で求められており、スーパープログラムは、その要請に的確に応えられるものです。本学において教員を目指している学生が確実なキリスト教理解を持つことは、当人の今後の進路決定のみならず、本学のキリスト教大学としての特色を示すために極めて有効です。その実現に向けて2009年度からスーパープログラムを開始します。
- 2) 礼拝における各部間交流
学院各部で行われている礼拝において、相互の交流を進めます。具体的には礼拝奨励者の交流、聖歌隊の交流、ハンドベルクワイアの交流等を検討し、各部との調整を踏まえながら計画を進めていきます。
- 3) 現代的礼拝音楽(讃美)の大学礼拝への一部導入
2009年度前期、後期のそれぞれの大学礼拝において、現代的礼拝音楽(讃美)による礼拝を1～2回実施します。

・教育・研究の充実と環境の整備

1. 青山キャンパス再開発の取組み

2006年12月に策定した「21世紀の青山学院 - Re-creation and Transformation - ~ 伝統の中での新生、青山学院の新たな出発 ~ 」と題する教育・研究を中心とした「アカデミック・グランドデザイン」を踏まえ、キャンパス全体の理想的な最終形をイメージし、ハード面(建物)の計画であるグランドデザインを現在策定しています。

青山キャンパス再開発としては、2007年8月に完成した初等部校舎の建替え、そして2008年度の高等部校舎の建替工事着工に続き、2009年度は大学A棟(仮称)の建設に着手し、再開発はいよいよ本格始動します。

大学A棟(仮称)新築工事

大学A棟(仮称)は、2012年4月より、相模原キャンパスで学ぶ人文・社会科学系の7学部の1、2年生が青山キャンパスで学ぶことに伴う学生数の増加、及び居ながらの建替えの最初のバッファとなることに留意した機能と広さを確保しつつ、「青山キャンパス・グランドデザイン」に調和した建物とします。

建築物の概要は、12号館の跡地、それに続く大学のテニスコート敷地、及び石坂ガーデンの一部合計3,500㎡の敷地に、鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造の地上12階、地下1階の建物であり、着工予定は、2009年8月、完成は2012年1月を予定しています。

2. 女子短期大学の改組・改革

女子短期大学の教育課程を見直し、短期の女子高等教育の充実を図ると共に、21世紀の新しい女子高等教育の再創造と変革を目指し、短大内に設置された「改組改革検討委員会」の検討を踏まえ、法人・大学・短大三者による協議の上、2009年度中には基本的方向を明らかにする予定です。

3. 学校法人青山学院と学校法人横須賀学院の「教育提携協定」

1950年4月、横須賀学院は、1948年に青山学院横須賀分校専門部に併設された第二高等部を引き継ぐ形で開設されました。このたび、60年の歳月を経て、両学院共通のミッションである「キリスト教信仰に基づく教育」の一層の充実と発展を図るために、教育提携を締結いたしました。

双方協議の上、以下の取り組みを進めてまいります。

- ・横須賀学院高等学校から青山学院大学への推薦入学制度の拡充を図る。
- ・横須賀学院高等学校・中学校と青山学院大学との連携授業の充実を図る。
- ・横須賀学院小学・中学・高等学校と青山学院初・中・高等部の児童・生徒の交流を推進する。
- ・横須賀学院と青山学院の教職員の交流と研修を推進する。

4. 「青山学院スカラーシップ」(寄付による奨学金制度)の充実

「青山学院 EVERGREEN 21 募金」は2009年12月31日をもって終了しますが、募金対象事業の一つである「在学生支援体制の充実」に基づき創設された「青山学院スカラーシップ」制度による給付奨学金は、募金期間終了後も継続、発展させていく予定です。

この奨学金制度は、現下の急激な経済環境の悪化にみられるような緊急不測の事態により、円滑な学業の継続が困難になった生徒・学生等にも対応することができるものです。

ご寄付による奨学金制度拡充のため、今後は寄付者、奨学生、募金事務局の関係が一方通行にならぬよう、アンケートの実施などで生の声を吸い上げ、その意向を取り入れるなど柔軟な対応をもって、より緊密な関係を築いていけるよう努めてまいります。

5. 青山学院の新たな文化創造・発信拠点 - 「青山学院アスタジオ」(常青寮跡地ビル) 活用の推進

2009年9月の供用開始を目指し、現在常青寮跡地に地上4階・地下1階建て(敷地面積1,325㎡、延床面積2,883㎡)のビル「青山学院アスタジオ」が建設されています。

この「青山学院アスタジオ」は、青山・表参道の地理的環境を最大限に生かし、21世紀の青山学院にふさわしい新たな文化創造、産学連携、事業創出を行い、学院のステータス向上を目指すもので、青山の街に新たなシンボルが誕生します。

基本コンセプトは、学院の教育研究及びその他の事業展開を育成するインキュベーターや事業化シーズの拠点、地域や社会にもオープンな場とし、学術文化施設・アトリエ等とのコラボレーションの具体化、エクステンションプログラムの講座開講等ですが、更に在京キー

局の「サテライトスタジオ」を配し、文化の創造・発信機能を高めます。

なお、建物名称とロゴマークは、日本を代表するアートディレクター浅葉克己氏(東京造形大学/京都精華大学客員教授、東京TDC(東京タイプディレクターズクラブ)理事長、紫綬褒章受賞)に依頼し、「青山学院アスタジオ」と命名されました。



・学校法人としての戦略の強化

1. 財政の健全化

学院は2月に日本格付研究所から「AA+」、スタンダード&プアーズ社から「AA-」と、2つの格付け機関から5年連続の高い評価を受け、昨年秋以降の金融市場の混乱の中にあっても良好な財務体質を維持していることが評価されております。

現在、収入の根幹である学生生徒等納付金の大幅な値上げが望めず、補助金・寄付金も減額傾向にある状況の下、学院としましては、施設の有効活用等による収益事業収入の拡大や安全性かつ収益性を高めた金融資産の効率的な運用等、様々な施策を積極的に推し進めてまいります。

一方支出面においては、限られた原資で最大限の効果を発揮出来るよう、必要性、緊急性、妥当性等を吟味し策定した無駄のない予算を、執行段階でも更に精査のうえ実行してまいります。

以上のように収支両面から様々な施策を実施し、教育研究の拡充を図りつつ、なおかつ青山キャンパス再開発等の将来計画に対応できるよう更なる財政の健全化に努めてまいります。

2. 「青山学院 EVERGREEN 21 募金」の取組み

2004年11月に活動を開始した「青山学院 EVERGREEN 21 募金」の活動も最後の年になりました。

2008年秋からはじまった世界的な経済不況は国内企業にも大きな影響を与えており、大変苦しい経営を迫られている現状があります。そのため募金の依頼に対する企業側の姿勢も大変厳しくなっています。加えて、他学校法人の周年募金事業との競合もあり、目標額達成は著しく困難な状況下にあります。

そこで、2009年度は、長年培ってきた信頼のある取引企業や日頃よりご支援いただいている校友の皆様および学院を支える教職員への広報を強化し、募金への更なるご理解とご協力をお願いしてまいります。

3. コンプライアンス体制の確立と実行

1) 個人情報に係る規則整備及び体制の確立

「学校法人青山学院個人情報保護に関する規則」に基づき、2009年度前半を目標に、同規則の実施に必要な細目を定めた「学校法人青山学院個人情報の保護に関する規則施行

細則」の制定や関連規則の改正を行うなど、規則整備を進めます。また、整備した規則に基づいて、年度内に各職場での個人情報取扱いの基準となるガイドラインを作成するほか、同ガイドラインに準拠した手引き、パンフレットの作成に着手します。

2) 不適正行為報告制度、苦情報告制度等の検討

公益通報者保護法に基づき、本法人における公益通報者保護制度について定める規則の制定に必要な事項の検討に着手します。2009年度は、第一段階として法人レベルにおける補助金及び公的研究費等の適正使用に重点を置き、関係部署で調整・協議の上、年度内に「学校法人青山学院補助金及び公的研究費の適正使用に関する規則」(仮称)の原案を策定できるよう努めます。

4. 事務組織の再編と業務効率化

2012年4月に実施を計画されている、両キャンパスにおける学部一貫教育を視野に入れ、教育・研究活動と学生・生徒・児童・園児のキャンパスライフを支援するため、今日の社会ニーズに応えられる、体制の整備・強化を図ります。

5. 青山学院知的資産連携機構の活動強化

青山学院の知的資産具現化とそのマネジメントをさらに充実させるため、2009年度は、前年度採択されました、文部科学省の「国際的な基本特許の権利取得などを図る国際的な産学官連携体制の強化や国公立大学間連携等による地域の多様な知的財産活動体制の構築を目的とした、『産学官連携戦略展開事業(戦略展開プログラム)』の『知的財産基盤の強化』事業」を推進いたします。外部ステークホルダーならびに研究推進・支援部門との連携によるオープンイノベーションの実施における諸リスクをミニマムに保つ努力を継続し、共有知的財産の保護と実施の充実を図ります。2009年度は青山学院の研究成果の社会還元となるハイテクスタートアップ企業のマネジメント支援に加え、デジタルコンテンツの荷札となる国際標準規格技術の普及を図るコンソーシアムの設立も目指しております。

【大学】

青山学院大学は、建学の理念と使命に基づき、教育研究活動の更なる充実を図るとともに、スクール・モットーである「地の塩、世の光」を体現し、公正な立場から社会の要請に応え、社会に貢献する人材の育成と教育を目指しています。その実現と2012年のキャンパス再配置の準備のために、また経済不況の長期化が予測されるなかで学生の勉学や生活・就職を支援するために、2009年度の事業計画を下記のとおり策定しました。

1. 学部教育の充実と改革

2008年4月に新設された総合文化政策学部、社会情報学部、経済学部現代経済デザイン学科について、既存学部の教育プログラム改革との相乗効果によって大学全体の活性化を図ります。さらに、2009年4月に設置される教育人間科学部と経営学部マーケティング学科のスタートアップを円滑に進めます。新たな学部、学科の改革については、文学部における学科新設等の計画を推進します。

これらの組織改革と並行して、2012年から予定されている4年一貫教育を実りある内容とするために、青山スタンダード教育および学部教育プログラムの改革を推進し、卒業生の学士力を保証するという視点から、本学の競争力を高めることを目指します。

2. 大学院教育の充実

大学が持つ大きな使命として「知の追究」が挙げられます。そのために行うべきことのひとつが大学院教育の充実であり、学部基礎を置く研究科大学院の充実と、専門職大学院の教育・研究の強化を目指します。特に本学の場合、専門職大学院等では社会人が大きな役割を果たしています。専門職大学院だけでなく、人文・社会科学系の研究科においても研究者・専門家を育成するためのプログラム強化とともに、社会人を対象とした大学院教育の強化を行っていきます。

すでに海外の大学と連携して学位授与を行う研究科があり、また各研究科ともに学位授与の体制を強化しつつあるなかで、今後は、大学院GPへの取り組みをさらに強化するとともに、教育プログラムの改革を進めます。

3. 青山キャンパスの再開発と教育課程の再配置

質の高い教育を行うために、また他大学との競争力を保つためにも、現在計画されている青山キャンパス再開発の進行に合わせて、2012年度から人文・社会科学系学部の教育課程(4年間)を青山キャンパスに設置することを予定しています。

4年一貫の教育課程を円滑に進めるためには、教育環境を整備するとともに、キャンパスの生活環境を整えていく必要があります。今後、環境整備の内容を検討し、青山キャンパス再開発を実りあるものにしていきます。

4. 相模原キャンパスの開発

青山キャンパスの強化・充実を図るだけでなく、理工学部と社会情報学部との調整・協力

を進めながら、相模原キャンパスが神奈川県や相模原・町田地域における学内外の研究所・大学等との連携を強めることにより、相模原キャンパスの一層の強化を目指します。さらに、教育研究施設を整備することに努めます。

また、新学部の基本構想をまとめ、本学の教育研究活動全体の活性化を図ります。

5. 研究体制の強化

2008年度は、文部科学省が大学教育改革支援事業として実施している各種競争的補助金に8件採択されました。これは本学の教育改革の試みが先導的なものとして高く評価されたものです。採択された事業を着実に遂行するために、必要な制度、支援組織を整備強化します。科学研究費補助金についても、申請件数、採択件数の増加を目指します。2008年度、学術研究推進部にホームページを開設し、外部資金の獲得に必要な情報を入手しやすくしました。発信する情報の内容をさらに充実させるとともに、申請者を支援する体制の強化を図ります。

社会連携機構は、社会と連携した研究活動により社会に貢献することを目指しています。現在、WTO 研究センター、社会学連携研究センター、ヒューマン・イノベーション研究センター、国際交流共同研究センターの4研究センターが活動しています。これらセンターの活動の中から上記の教育改革支援事業に採択された企画が生まれています。2008年度に発足した国際交流共同研究センターの活動が本格化することもあり、引き続き各センターの活動を支援していきます。

総合研究所は学内外の研究者による共同研究の場であり、そこで取り上げられる本学の特色となる研究の遂行を引き続き支援します。

社会に開かれた大学として研究教育活動をさらに活性化するために、産学公（官）の連携を強化します。また、2008年度発足した北里大学との戦略的産学連携支援事業を充実させるとともに近隣大学との連携を強化します。

6. 入試改革

2010年度から全学部統一入試を導入することによって受験機会の増加を図るとともに、文学部英米文学科、日本文学科および教育人間科学部教育学科、心理学科が大学入試センター試験の利用を開始し、多様な受験生を迎え入れる体制を整えます。

7. エクステンションプログラムの実施

本学を社会にいっそう開かれたものとするために、2009年度から「青学オープンカレッジ」という名称でエクステンションプログラム（有料）が実施されます。青山学院らしさを出すものとして、たとえば近隣の美術館などの芸術・教育・文化施設の協力を得た講座を幾つか設けており、グレーター青山エリアの中核に本学を位置づけようとするものです。各界の第一人者が講師をつとめる講座もあります。青山キャンパス再開発のため、大学の授業期間中の教室の確保が難しいので、2009年9月と2010年3月にあわせて約40講座（1講座3回）を実施する計画です。なお、これまで実施してきた渋谷区と相模原・座間市の市民大学と4つの公開講座（渋谷区の市民大学講座の他はすべて相模原キャンパスで実施、無料）も引き

続き開講します。

8. 国際交流の推進

本学の一層の国際化を図ることは緊急の課題です。まず、相模原キャンパスの国際交流を促進するために、2009年4月に「相模原キャンパス国際交流センター」を開設します。また、日本政府が進めている海外留学生の「30万人受け入れ計画」に対しては、プロジェクトチームを立ち上げて取り組みます。実行プログラムの策定と関連して、国際交流促進のための中・長期計画の具体案を大学執行部と国際交流センターが中心となって作成し、全学の協力のもとにその実現に努めます。この中には、外国人のための日本語教育の整備、海外における本学の拠点校作り、交換留学プログラムの充実、大学院生も含んだアジアからの私費留学生の拡大、そして研究・学術面での国際ネットワークの強化等が含まれます。

9. FD（ファカルティ・ディベロップメント）組織の設置とFD活動の充実

本学は2007年度財団法人大学基準協会の認証評価を受け、2008年3月に「大学基準協会の大学基準に適合していることを認定する。」との評価結果を得ました。専門職大学院においても、2008年度に関係機関の認証評価を受けています。

また、専門職大学院においては2003年度より、研究科においては2007年度より、学部においては2008年度より、それまで努力事項であったFDが義務化されることになりました。充実したFDによって大学教育の強化、活性化を実現するため、これまでのFDプロジェクト組織に代えて、FD推進委員会および全学FD委員会を設置し、全学的なFD活動の企画、実施の体制を整えます。2009年度からは新しいFD組織のもとで、学内公募等による教育プログラム、FDプログラムを推進し、大学教育の改善、改革を進めます。

10. 学生への支援

経済不況の長期化が懸念されるなかで、学生支援体制がより重要になっています。本学としての奨学金制度の充実を図り、経済的な面からも学生支援の体制を整備することを目指します。

就職活動への組織的な支援体制を充実し、相模原キャンパスを含めた就職支援を強化する一方で、キャリアディベロップメント講座等によって、学生の就職への意識を高める仕組みづくりを進めます。また、大学と社会との連携によって学生の社会参加を進めるために、ボランティア活動等の支援に努めます。

11. 社会貢献活動

本学の知的資源を活用して、広く地域・社会に貢献する活動に取り組みます。教員免許の更新講習を2010年度から実施することを目指して、本学卒業生のみならず、社会的な要請に応えられるよう準備を進めます。また、学校教育法の改正に伴って開設される履修証明プログラムを推進するほか、地域・社会との連携によって社会貢献活動の充実を図ります。

【女子短期大学】

青山学院女子短期大学は、青山学院教育方針に基づき、本学の教育理念・目標である「女子の高等教育に専念し、社会のあらゆる局面で積極的な貢献をなし得る覚醒した女性の育成を目指し、現実に即した有用な専門の学芸のみならず、全人的で世界的な視野に立つ高度な教養教育を授ける」ことの達成を目指しています。2009年度の事業計画は、下記のとおりです。

1. 健康教育の推進

全学的な取組である「健康教育授業を軸とした健康支援」が2007年度文部科学省「特色ある大学教育プログラム」に採択され、2009年度が最終年度となります。この取組は、2000年度からスタートした新しい健康教育カリキュラムを軸に、それまで取り組まれてきた課外活動等を再編強化したものであり、学生の体力・健康増進・意識の向上、生涯スポーツ活動を見据えた運動習慣の基礎づくり、そして社会のあらゆる局面で積極的に貢献しうる教養ある女性の育成に向けて総合的な支援を行うことを目的としています。最終年度を迎え、カリキュラムや課外活動等のさらなる充実・改善、健康管理サポート体制の整備・拡充を図ります。

2. インターンシップ(就業体験)の整備と支援プログラムの検討

短大では、卒業後の進路をサポートするために、1年次のキャリアガイダンスに始まり、内定者や卒業生による報告・相談会、各種対策講座、3つの課外活動プログラムなどを用意し、学生が最良の進路選択ができるよう努めています。

2009年度は、学生のキャリアデザインに繋がる支援として、課外活動プログラム「マナー・キャリアデザイン講座」を4回程度の連続講座として充実させるとともに、新たな発展的試みとしてインターンシップとその単位化の可能性を検討し実現を目指します。

3. 国際交流の推進・充実

短大では、以前より、アメリカ合衆国にある3つの大学と姉妹校の提携を結び留学制度を設けています。2008年度は、学生から強い要望がある短期語学留学の紹介に応え、姉妹校の一つであるCollege of Notre Dame of Marylandの附属語学学校English Language Institute主催の春期プログラムへの積極的参加を学生に促すため、その授業料の一部補助等をはじめました。このプログラムは充実した語学研修プログラムとして定評を得ているものです。2009年度は、学生のニーズに沿った留学プログラムの推進をさらに図るとともに、私費留学生または語学研修参加者に対する新しい形の奨学金の検討を行います。

4. 全学自己点検・評価委員会によるFD活動の推進

教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取り組み(FD活動)として、2008年度は各種講演会、パネルディスカッションの開催、専任教員による授業公開を実施しました。2009年度は、教職員の資質向上を推進させるために、授業公開の機会の拡大など、さらなる企画の充実を図ります。

【高中部】

青山学院高中部の教育理念

本校は、青山学院教育方針にもとづいて、ひとりひとりの生徒の人格を育み、その自己実現を支えます。また、与えられた自分の力を他者のためにも使い、隣人と共に生きることを喜び、平和な社会に貢献する人間の育成を目指します。

高等部並びに中等部は、2009年度の事業計画を下記のとおり策定しました。

【高等部】

1. 高等部校舎の建替え・引越し

第 期工事：2008年4月～2010年3月、第 期工事：2010年4月～2012年7月

2009年度は、第 期工事の西棟(仮称)の完成年度であると同時に第 期工事の北棟、講堂・メディア棟(仮称)の建設に着手する年度です。そのために解体予定の北校舎・生徒会館・東A校舎内にある施設を移転・退避しながら引越してできるようにバッファー計画を策定し、実行します。また、同時期に西棟(仮称)への什器類等の搬入と新施設への引越しも実行します。これらの生徒に対する教育への影響を最小限に抑えつつ、適正な環境の確保・維持に努めます。

2. 学習・進学記録の共有化と指導の適切化

高等部を取り巻く環境は、大学による付属校の増設、女子高の共学化、都立・私立校の中高一貫校化などから年々厳しさを増しており、少子化の中、受験生の獲得競争もますます激しくなっています。そうした中、他校との差別化をより鮮明に打ち出すために、高等部の強みである総合学園の特色を活かし、中等部から大学までを視野に入れた進路情報を共有し、生徒指導に活用していくことを計画しています。

3. 授業評価とその活用法

学校評価の一部として、各教科における授業評価とその活用法や各教科で設定した課題に対する達成度を検証し、中高合同教科会でその取り組みを報告します。

4. 生徒の学校内外における安全確保

新校舎建築計画に沿った安全対策を防災・防犯・環境委員会と建築委員会の共通課題とし、具体的な対策案を策定していくことを計画しています。

【中等部】

1. 少人数教育の推進・接続教育の強化

アカデミック・グランドデザインに基づいた少人数教育の推進・接続教育の強化に取り組むとともに、学習指導要領改定に伴うカリキュラムの検討を進めます。

一人一人に行き届いた教育を行うために、少人数クラス(32人)の準備・検討
英語の4-4-4制導入に伴う接続教育の準備・検討

初・中・高等部間の学習・進学記録の共有と授業・学校行事の相互参観の推進
初・中・高等部間の各種連絡会・合同研修会の充実
新学習指導要領に対応するカリキュラムの検討と学校評価制度の推進

2. 平和教育の充実

平和教育を充実させるために、2005年度より沖縄旅行を実施してきました。沖縄の歴史と、沖縄の人びとが現在抱えている基地問題を通して、平和とは何か、平和を実現するためには何をなすべきかを考えさせるために、次の事柄を行います。

課題図書レポート

沖縄ノートの作成

平和講演会の開催

沖縄旅行の報告、感想発表・展示

平和教育委員会を中心に、平和教育の推進を図る。

3. 安全・安心な教育環境整備

青学講堂の耐震補強工事

毎日の礼拝や式典に使用している青学講堂の耐震工事を行います。
本校舎の耐震調査を実施し補強を検討します。

【初等部】

「ひとりひとはかけがえのない存在として 命と賜物を神様から頂いています」

青山学院が創立から 130 年余の間貫き通してきた建学の精神、

それは「神を知り」「神を信じ」「神の愛に応える」人格の育成です。

このキリスト教教育こそが、

真に「人を人として育てる」教育であると考えています。

これからの時代は、

他者と「共に生きる」生き方がますます問われるでしょう。

「感じる心」「考える力」「行動する活力」を大切にしたい教育が、

青山学院初等部の教育です。

初等部は、2009 年度の事業計画を下記のとおり策定しました。

1. アカデミック・グランドデザインに基づいた少人数教育の充実、幼稚園・中等部との接続教育の強化

英語教育 4 - 4 - 4 制の実施 2 年目にあたり、カリキュラムに沿った授業の充実を進め、中等部教員に 6 年授業を担当してもらうことによって接続教育を実施します。

きめの細かい指導を一層充実させるために、32 名学級の個を大切にしたい学級指導と宿泊行事を通じて社会性を育てる学習活動や生活指導を充実します。

教員の指導技量、資質の向上を目指し、授業研究を推進します。初等部・幼稚園の研修会、初等部・中等部の研修会の内容を充実します。

2. 広報活動の充実、青山学院初等部の教育を理解してもらうための活動の強化

学校紹介ビデオやパンフレットの再編集も含めて初等部教育をより理解してもらえるようにします。

学校説明会(校舎見学会)の回数を増やし、教科・生活などの活動について初等部教育をより理解してもらえるようにします。

初等部ホームページを再構築し、見易さと使い易さを考えたものにします。

3. 安全・安心な教育環境の整備

芝生を、体育、休み時間、運動会などの活動に提供できるようなコンディションに保つため、芝生の刈り込み、施肥、灌水、除草などの維持管理を児童、教員、保護者が協力して実施します。

身分証明書とハイレコカードを一体化し、個人情報を守りながら登下校の打刻により保護者が安心できる環境を維持していきます。

保護者証と災害時児童引渡しカードを一体化し、災害時の混乱と紛失を防ぐようにします。

【幼稚園】

幼稚園の教育(保育)理念

青山学院幼稚園は、青山学院教育方針に基づき、豊かな自然の中でいろいろな人と共に生活することにより、神様の恵みと守りを感じ、祈りと感謝と喜びの生活が実現出来る保育を目指すものである。

幼稚園は、教育環境の「安心・安全」の向上を目指し、園児にとって、より良質の保育環境となるよう整備に努めています。2009年度は、以下のとおり整備事業計画を実施し、より良い保育の確保と園児が過ごしやすい環境整備の促進を目指します。

保育環境の整備

- ・年中・年長各クラスの間仕切りの改修工事
- ・保育室の扉の改修工事
- ・園舎サッシの改修工事
- ・手洗い場網戸設置工事

保健室洗面台改修工事

園児の怪我の速やかな手当のために、保健室の洗面台を、足の傷口の洗浄も可能なものに改修します。

年中、年長トイレ洋式改修工事

近年の生活様式の変化に合わせ、使用頻度の少ない和式トイレを洋式トイレに改修します。(年少は2007年度に実施済み)

地の塩、世の光

The Salt of the Earth , The Light of the World

【青山学院スクール・モットー】

学校法人青山学院 2009年度事業計画書 (2009年4月発行)

(問合せ先) 本部 総合企画部 03(3409)9416 内線 11332
